

でもこの頃はこんな方法で星野写真を写す人も段々増えたようで、私は驚いている。

野外で写すなら、カメラを望遠鏡の中央部の雲台に取りつけなければならないのであるが、ワイドアングルのカメラなら望遠鏡の筒先きにけられてしまわないために、雲台の足を相当長くしなければならないが、ドームの中の赤道儀で写すような場合では、これだと望遠鏡とカメラと一緒にスリットに入らない。どうしてもカメラを望遠鏡の筒先きに、ドューキャップに固定しないと都合が悪い。私はいつもそんなやり方で写している。

しかしとにかく、この本の巻末に書かれてある注意をよく読んで多くの方々が星の写真をうつす楽しみを味わってほしい。此頃は Tri X のフィルムも町のカメラ屋ですぐ手に入るし、バンドール現象液も簡単に買える。二倍か二倍半に増感すれば、ASA 1000 ぐらいにはすぐなる。ただここでもう一つ私が注意を加えたい事は紙焼の時、引伸し機のレンズが悪いと折角フィルムには良く写って

いても、紙に焼いて見ると周辺の方にコマ収差が出て、像がくずれて見にくくなることがある。こんな場合は少し大きく引き伸してまわりの方を切りすててしまっ、いい所だけ紙焼きするといい。これも一つの手である。

とにかく、この本の写真はどれも皆美事な出来ばえである。南十字星やケンタウルスの α , β まで写っているが、グアム島ぐらいまで出掛けられたのであろうか。

この本の初めの「はしがき」に「現代科学の最先端として宇宙の神秘をときあかす天文学の世界に、星座のような美しい心の世界があるというもの、またなんと楽しいことでしょう」と書いてあるが、全くその通りである。天文学というとすぐにシチめんどくさい数学が出て来るが、アマチュアは、こうやって星座の写真を取り、小さな星団や星雲などさぐりあてて、やれこれが M 44 だとか、これが M38 だとかわかった時のよこびはまたかくべつなものである。

(水野良平)

掲 示 板

名古屋大学空電研究所助手公募

下記により助手 1 名を公募致します。

名古屋大学空電研究所

記

1. 公募人員 助手 1 名
2. 所属部門 空電研究所第 3 部門
3. 専門分野 電波天文学
当研究所の電波天文グループは、これまで主として太陽電波・電波星シンチレーションの理論および観測技術の研究を行ってきたが、更に宇宙電波の観測技術の開発にも力を注ぎつつある。
4. 着任時期 昭和 48 年 6 月 1 日の予定
5. 提出書類 履歴書、研究歴、研究業績リスト、主要論文別刷
6. 締 切 昭和 48 年 3 月 31 日
7. 宛 先 〒442

愛知県豊川市市田町下中野 68
名古屋大学空電研究所 教授 田中春夫
電話 05338-6-3154(代)

広島大学理論物理学研究所助手公募

1. 公募人員 助手 1 名
2. 所 属 理論物理学研究所
3. 専門分野 宇宙物理学 (素粒子論との境界領域を含む)
4. 任 期 5 年 (ただし再任を可とす)
5. 着任時期 昭和 48 年 4 月以降
6. 提出書類 1) 履歴書
2) 研究歴
3) 論文リストおよび主要論文別刷
4) 今後の研究計画
7. 公募締切 昭和 48 年 3 月 31 日必着
8. 宛先および問い合わせ先
〒725
広島県竹原市竹原町の場
広島大学理論物理学研究所
田 地 隆 夫
電話 08462-2-2362
9. 封筒に公募書類在中と表記して下さい。

(註) ただし、適任者がいない場合には決定を留保いたします。

研究会の集録

「地球回転」研究会の集録ができました。

この研究会は、昨年11月20日から三日間、栃木県・那須町で開かれ、参加者は緯度観測所、東京天文台、国土地理院、水路部などから総勢45名ありました。

内容は、地球の極運動・自転運動、及び測地観測の問題に亘っています。集録論文数22です。

御希望の方は、新美幸夫 (〒181 三鷹市大沢 東京天文台) に御連絡下さい。一部200円でおわけいたします。

~~~~~  
 雑 報  
 ~~~~~

新彗星 Heck-Sause (1973 a) の発見

フランスのアンドレ・エック (André Heck) とジェラルド・ソース (Gerard Sause) は、オート・プロバンス天文台の口径60cm, F/3.5のシュミット・カメラで1月11日(世界時)に撮影した乾板上に光度12等の新彗星を発見した。仙台天文台では1月4日(世界時)に撮影した乾板上にこの彗星が写っていることを知り、IAU天文電報中央局に報告した。Heck と Sause による発見位置と、仙台天文台の観測位置は次の通りである。

	U.T.	$\alpha(1950.0)$	δ	m_1	観測者
1973年 1月	4.8153	12 ^h 34 ^m 33 ^s .9	+10°00'28"	12	仙台
	11.05278	12 29.5	+13 22	12	Heck Sause
	12.00069	12 29.3	+13 30	12	Heck

その後の観測からスミソニアン天文台のマースデンは次のような初期放物線軌道を求めている。

$$T=1972年10月5.253日(U.T.)$$

$$q=2.50983A.U.$$

$$\left. \begin{aligned} \omega &= 346^\circ 149 \\ \Omega &= 175^\circ 171 \\ i &= 138^\circ 626 \end{aligned} \right\} 1950.0$$

(香西洋樹)

GK Per の増光 (Nova Per 1901)

1973年1月19日にスミソニアン天文台から東京天文台に届いた天文電報によると、アメリカのペルティエ (Peltier) が1973年1月18.04日(世界時)に、GK Per が眼視光度12.0等に増光しているのを発見した。

このGK Perは1901年2月21日にイギリスのアンダーソン (Anderson) によって3等級の星として発見され、2月23日には0.2等の極大光度に達し、11年後の1912年には爆発前の13等級に戻ったことが観測されている。現在では爆発前の光度13等を中心に約3等級の

間を不規則な周期で変光していて、この星を中心にしてガスが取り囲むようになっていることが知られている。東京天文台では19日の夜から堂平観測所で91cm反射鏡による観測を始め、下記のデータを得ることができた。なお名古屋市の石原俊洋氏は14cm反射鏡による眼視観測で、19日の増光に気づき、いち早く東京天文台に連絡して来られた。

GK Per の位置と光度の観測値は次の通りである。

	$\alpha=3^h24^m24^s.1$	$\delta=+43^\circ33'40''$	1900.0			
	U.T.	V	B-V	U-B	観測者	
1973年 1月	18.04日	12.0			Peltier	
	19.41	11.7			石原	
	19.50	12			石原	
	19.56	12.0 ± 0.1	+0.6 ± 0.1	-0.52~ -0.53	東京 天文台	
1966年 10月	21	13.29	+0.94	-0.62	"	
1966年 12月	30	13.1	+0.70	-0.64	"	
1971年 10月	27	13.24	+1.00	-0.32	"	

1966年、1971年の観測値は通常の時の光度を示すものとして参考のために記した。

(香西洋樹)

Gehrels 彗星 (1973 d) の発見

アメリカのゲヘル (Tom Gehrels) はパロマー天文台の122cmシュミット・カメラで次の位置に新彗星を発見した。

1973	U.T.	$\alpha(1950.0)$	δ	m_1
2月	8.29308	8 ^h 07 ^m 5	+22°05'	19
2月	9.29759	8 06.6	+22 02	19

(香西洋樹)

~~~~~  
 学会だより  
 ~~~~~

春季年会について

今春の年会は5月15日(火)から18日(金)までの4日間、東大理学部2号館(本郷構内・赤門脇)講堂で開催の予定です。

講演申込みは「〒181 三鷹市大沢 東京天文台 成相恭二」あて、3月22日(木)までに必着するよう、規定の申込み用紙を用いてお送り下さい。なお自分の講演の日時を早目に知りたい方は、申込みの際に返信用ハガキを同封されれば、プログラム決定しだいお知らせします。

申込み用紙は、下記の各支部理事あて、返信用20円